

学生が研究テーマ発表

独自の視点で販売戦略など説明

課題解決
ラボ

経営課題の解決の方向性を発表する学生ら＝神戸新聞社（撮影・小林良多）



兵庫県の中小企業
が抱える経営課題を大
学のゼミ単位で調査研
究する「課題解決ラボ」

の中間発表会が5日、神戸市中央区の神戸新聞社であった。学生ら260人が参加し、独自の視点を取り入れた販売戦略などを説明した。成果は10月29日の最終発表会で披露する。

課題解決ラボは、県内の中小企業と大学生の就職マッチングを支援する「Mラボ」（神戸新聞社など主催）の中核事業。4回目の今回は、10社・団体と県内外9大学20チームが参加している。学生たちは6月から企業訪問や経営者との意見交換を通して、研究テーマを探ってきた。

この日は、レトルト食品製造のエム・シーシー食品（神戸市東灘区）と組む、兵庫県立大経営学部の上瀬昭司准教授のゼミが「消費者アンケートを実施・

NEXTに動画



エムラボ

分析し、ドレッシングの販売戦略を練る」と報告。同社は「実際に活用できる結果になることを期待している」とコメントした。県立大3年の仲本太地さん（20）＝神戸市垂水区＝は「企業の求めるものが自分たちの考えと違って新鮮。アンケート手法などを練り直して研究を進めたい」と話していた。

（塩津あかね）